

知立市ユニバーサルデザイン推進計画策定協議会

第6回 策定協議会議事録<要旨>

日時：平成19年7月31日（火） 13：30～15：30

開催場所：知立市役所 4階 第7会議室

出席者：委員9名（欠席者4名）、オブザーバー4名、事務局8名

<議事次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 報告事項
 - 1) 第5回策定協議会議事録の確認
4. 協議事項
 - 1) UD整備事例の報告（2）
 - 2) プロセスⅠ「UDの考え方を学ぶ」具体的事案の検討
 - 3) プロセスⅡ「現況を把握する」具体的事案の検討
5. その他
6. 閉会

<報告事項概要>

◆1) 第5回策定協議会議事録の確認

事務局：今枝委員が森岡委員と交代、また、オブザーバーの松永様が木村様と交代となる。

<協議事項概要>

◆1) UD整備事例の報告（2）

事務局：希望がなかったので事務局で選定、視覚障害者用設備について報告。タウンウォッチングで蓋かけが怖い旨の報告。知立市の条例に蓋かけに関することはないため、今回は入れて行きたい。

- 蓋かけ…1枚板にスリットの物は視覚障害者の白杖の先が入るため危険。排水溝の穴も大きすぎないように。連続するブロックの一部にグレーチングを設置すると気づかない事が多い。グレーチングは濡れるとよく滑るため、階段の付近に設置するのは非常に危険。
- 誘導用ブロック…動線の途中で管轄が変わる場合も誘導ブロックが途切れぬよう設置。スロープに設置されると車いす等で通行する場合に振動が避けられないので誘導は直前まで、スロープは手すりを設置。駅のホームに誘導する乗り込み箇所が一つだと下車駅の誘導先と別だった場合に困るので複数設置。誘導ブロックはエレベーター等への案内等にも使用できる。
- 案内表示…案内板は文字に重ならぬよう基準を決めて点字を付け、地図も浮き出るように表記する。トイレの表示を触りたくはないので、触って確認する物よりも男女を左右で決めておく。表示のサイズは品がないとも思えるほど大きい方がよい。
- 安全確保…階段を一色で設置すると視力の弱い方には危険、段鼻等の部分は色を変える。廊下等でも色を統一したい場合は障害物となる物は目立つように工夫が必要である。
- 展示…レリーフ等を直接触れるようにする。入り口で解説を聞くことが出来る無線を渡し、解説を聞くことが出来るようにする。周波数を変えることで各種言語に対応できる。

事務局：知立市内の視覚障害者数は87人とある。ただしこれは交付分、実際の数値は把握していない。

高橋委員：道路をフラットにすると自転車の暴走が怖い。学校は歩道を走るように指導している。

田中委員：自転車道について、現状の歩道は幅が1mくらいしか無いので無理がある。

高橋委員：街路樹が少ない。歩行の邪魔、車の視界遮蔽をせずに設置する方法はないか。

野崎会長：目が青い人は瞳で制御できる光量が少ないため照り返しにも配慮したい。

高橋委員：計画の範囲は駅からどこまでなのか。市民に構想を見せて欲しい。

森岡委員：地震対策を含めて電線の地中化を行って欲しい。

田中委員：駅周辺、幹線道路はする予定。

◆ 2) プロセス I 「UDの考え方を学ぶ」 具体的事案の検討

櫻井先生：結果は次回までにまとめ、報告させて頂く。結果を平均値で見るのではなく、最も弱い立場の人に合わせていきたい。気づかれたことがあれば事務局の方へお願いしたい。

保田委員：駅前スクランブル交差点の音響は前は付いていたのに外したのは何故か。

事務局：夜にうるさいからかもしれない、確証が持てないため確認する。

高橋委員：不参加だが駅周辺は狭い、子供が小さい頃はベビーカーを押したり手を引くときに怖かった。点字ブロックは雨の時に滑るので他に素材はないのか。

五味委員：ベビーカーの子供は振動が辛いだろう。車いすの手動式や簡易電動も辛いと思う。

兼子委員：いつも敬遠しており、久しぶりに歩いたが 30 年前から変化を感じなかった。

加藤様：踏切は 1 日の内、両方同時に開いている時間は 12 時間未満。交通量自体は後日、報告する。

倉地委員：踏切にシルバーカーは多い。介助者無しの車いすのみで来る人は余り見ない。

五味委員：車いすで知立駅は極力避ける。スロープの関係でミューに乗れないこともある。市営駐車場にエレベーターがない。

高木委員：踏切は三河線の方が幅が広い。また、駅の点字ブロックが悪い。

事務局：商品なので種類が色々ある。昔はそれで良かったのかも知れない。今は点をシールで貼る物、夜に光る物もある。場所によって色々選択できる。

事務局：車いすやベビーカーの前輪を大きくすることはできないのか。

倉地委員：コンパクト化のせいではないか。昔の乳母車の前輪にはスプリングがあった。

高橋委員：ベビーカーにも色々ある。ただ、重い物だとたたんで運ばなければならない時に辛い。

高木委員：車いすは前が小さい方が操作しやすい。

事務局：交通バリアフリー教室を秋頃に行く。企画参加希望者は事務局の方にごどうぞ。

野崎会長：連続講座を高齢者の住環境、子供の環境とユニバーサルデザイン、商店街などのテーマで行う。次回に提案させて頂く、行って欲しい内容があればどうぞ。

◆ 3) プロセス II 「現況を把握する」 具体的事案の検討

櫻井先生：タウンウォッチングの次の企画として駅前広場の利用者の方々へのヒアリング、アンケートを駅前の再点検を兼ねて 9 月頃に行く。内容は歩道を広げられない分はどこかに我慢してもらうことになるが、誰が我慢するかについて。啓蒙の意味合いが強い。

倉地委員：市の方に聞きたいのだが駅の近辺に車いすトイレを作る予定はあるか。

田中委員：無い、高架事業をやっていく時はこの検討に沿って行っていく。

倉地委員：その前にはできないのか。また、弘法様では階段で転ぶ等で必ず救急車が来る。

高木委員：駅の階段は手すりがあるが滑りやすい。

<その他>

事務局：作業部会でチェックリストの作業を進めており、その報告を兼ねるため 11 月に行く。間が開くのでその間に連続講座、交通バリアフリー教室の実施について連絡をする。

倉地委員：三重銀行前にタクシーが止まるのをやめた。だが、結局他の車が止まっている。

<閉会>

野崎会長：他に意見がなければ第 6 回知立市ユニバーサルデザイン推進計画策定協議会を終了する。